

平成21年 5月12日現在

研究種目：基盤研究（B）  
研究期間：2005～2010  
課題番号：18401020  
研究課題名（和文）近現代テュルク諸語文献を中心とする内陸アジア歴史資料リソースの構築  
研究課題名（英文）Building the Material Resource on Inner Asian History centering on the Modern Turkic Literatures.  
研究代表者  
菅原 純(SUGAWARA JUN)  
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・研究員  
研究者番号：30420285

研究分野：人文学A

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：(1) 新疆ウイグル自治区 (2) 中央アジア (3) チャガタイ語 (4) 東トルコ語 (5) 現代ウイグル語 (6) トルコ学 (7) 中国少数民族 (8) データベース

## 1. 研究計画の概要

内陸アジア地域を構成するテュルク系諸民族自身が残した現地語の諸文献は、当地域の歴史・社会・文化を研究するためのもっとも基本的な材料であるにも拘わらず、いまだ十分に活用されているとは言い難い状況にある。とりわけ14世紀以降から20世紀初頭までの長きにわたり当地域の文章語であったチャガタイ語の写本、ならびに現代語への移行期に著された様々な正書法を用いたテュルク系言語文献は、世界各地の図書館・研究機関そして民間に散在しており、それらに関する研究体制は依然遅れた段階にある。本研究課題はこのような現状に鑑みて、内陸アジア、とくに中国領新疆で近現代(18-20世紀)に作成されたテュルク諸語文献を対象として、その包括的な史料研究を推進し、当該分野の発展に寄与する文献リソースの構築を、オンライン・データベースの構築と公開、ならびに解題文献目録の出版により実現するものである。

## 2. 研究の進捗状況

当研究課題はその活動の柱を(1)収集(2)研究(3)総合(4)発信の4つのタスクカテゴリーに置いており、概してすべてのカテゴリーにおいて予定通りの進捗を達成していると言える。まず(1)収集においては中国・新疆ウイグル自治区で一次史料文献(主としてチャガタイ語写本)の複写物、ならびに二次研究文献(現代ウイグル語雑誌記事を中心とする)の収集活動を毎年実施した。さらにこれら収集文献についてはすべて当プロジェクト活動の

中で電子化を施し、書誌研究に供する体制の整備をおこなった。(2)研究活動は研究代表者ならびに分担者の史料研究活動に加え、当研究プロジェクトメンバーおよび外部参加者からなる文献の輪読会、ならびに史料研究会を複数回開催しており、史料情報、ならびに研究手法に関する情報の共有と深化に努めるとともに、次項の情報の総合に資する書誌情報の分析と蓄積とを推進した。(3)総合は当プロジェクトの前身プロジェクト(特別推進研究GICAS、東京外国語大学2001-2006)で構築した文献データベース(ODIAS)を基礎とした新疆史関連チャガタイ語写本史料解題参照目録の編纂を目指し、これまでにデータベースの情報追加と内容の充実を推進するとともに、書籍版の目録仕様の策定を完了した。そして(4)発信は当プロジェクトで推し進めてきた書誌研究の成果を米国中央ユーラシア学会年次大会(2006, 2007, 2008)、中国新疆ウイグル自治区ウルムチ市で開催された国際学術会議「シルクロードのマザール文化研究」(2008)などで報告するとともに、当該研究テーマに関する国際的協業体制の必要性の周知に努めた。

## 3. 現在までの達成度

## ②おおむね順調に進展している

当プロジェクトの最終的な具体的目標は前述の諸タスクの遂行を通じて、まずもって紙媒体(書籍)と電子媒体(CD-ROM～インターネットメディア)の両面で新疆写本史料の解題参照目録の構築を完了させることにある。現時点においては両媒体の基礎をなすデー

データベースの構築に関しては、3年間の活動を通じて前項で述べたように文献の収集と書誌情報の蓄積・研究が進められ、また最終的なアウトプット(出版ならびにインターネットでの発信)に向けた基本仕様の策定などが完了した。以上、当研究課題は当初の予定に照らし、ほぼ初期の計画を達成しているものと考えられる。

#### 4. 今後の研究の推進方策

上述の結果を受け、最終年度である今年度はまず(1)解題参照目録データベースのインターネットでの公開を達成することと、(2)その書籍版の出版に向けその編集作業を完成させ版下の組版まで完了させることにある。また9月に予定される米国中央ユーラシア学会年次大会(カナダのトロントで開催)にて再び史料研究の成果を報告するパネルを組織し、同時に当プロジェクトの公開データベースの国際的な周知に努める。こうした取り組みを通じ、将来的には当プロジェクトのインターネットメディアによるデータベースを核とする国際的なテュルク諸語文献を中心とする新疆史料研究の協業体制の確立を目指したい。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

菅原純 「カシュガル地方における聖地調査」『シルクロード学研究』28(2007)19-34p. (査読なし)

菅原純 「カシュガル地方における聖地伝承」『シルクロード学研究』28(2007)67-78p. (査読なし)

澤田稔 「フェルガナ盆地における聖地調査」『シルクロード学研究』28(2007)3-18p.

新免康・河原弥生 「ブズルグ・ハーン・トラとカッタ・ケナガス村の墓廟」『シルクロード学研究』28(2007)79-102p. (査読なし)

Sugawara Jun(菅原純)、Kawahara Yayoi(河原弥生) “Shinjang we Perghanida tépilghan mazar hujjetliri” *Bulaq*2007-3, 33-47p. (査読なし)

Sugawara Jun(菅原純) “Yaponiyidiki Shinjanggha munasiwetlik bezi matériyalliri” *Turpanshunasliq tetqiqati* 2007-1, 145-150p. (査読なし)

[学会発表] (計6件)

Shinmen Yasushi(新免康) and Sugawara Jun(菅原純), "A Historical Source of the Afaqi Khwajas under Qing Rule: On Scroll Prov. 219 of the Gunnar Jarring Collection, Lund University Library, Sweden”, *Central Eurasian Studies'*

*Society 7th Annual Conference*, 2006年10月, University of Michigan, Ann-Arbor, USA.

Sugawara Jun(菅原純) "Tradition and Adoption: The Sinicization of Legal Documents in Turkic Traditional Society in Provincial Xinjiang (1884-1955)" *Central Eurasian Studies Society 8th Annual Conference*, 2007年10月21日, Washington University, Seattle, USA

Sugawara Jun(菅原純) "Opal, a Sacred Site on the Karakoram Highway:A Historical Approach by Using the Descriptions Found in the Mazar Documents" *International Workshop, "Studies on the Mazar Cultures of the Silkroad"*, 2008年8月28日, 中国ウルムチ市新疆大学学术交流中心

Sugawara Jun(菅原純) "Waqf Litigations at Kashghar" *Central Eurasian Studies Society 9th Annual Conference*, 2008年9月20日, Georgetown University, Washington DC, USA

Sawada Minoru(澤田稔), "Genealogy of Makhdum-i A'zam and Cultural Tradition of Mazars" *International Workshop, "Studies on the Mazar Cultures of the Silkroad"*, 2008年8月27日, 中国ウルムチ市新疆大学学术交流中心

Shinmen Yasushi(新免康), "Mazars in Xinjiang from a Foreigners' Perspective in the Nineteenth and the Early Twentieth Centuries" *International Workshop, "Studies on the Mazar Cultures of the Silkroad"*, 2008年8月28日, 中国ウルムチ市新疆大学学术交流中心

[図書] (計7件)

菅原純・河原弥生, 『新疆およびフェルガナのマザール文書(影印)1』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2006), 154p.

菅原純・アイスマ・ミルスルタン 『Éling, Éling !』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2007), 164p.

菅原純・アイスマ・ミルスルタン 『現代ウイグル語接辞索引』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2007), 33p.

菅原純 『現代ウイグル語語彙集(附日本語ー現代ウイグル語索引)』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2007), 533p.

菅原純・アブリズ=オルホン 『新疆およびフェルガナのマザール文書(影印)2』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2007), 152p.

ジャリロフ・アマンバク、河原弥生、新免康、澤田稔、堀直 『「ターリーヒ・ラシーディ」テュルク語訳附編の研究』NIHU プログラム「イスラーム地域研究」東京大学拠点(2008), 372+171p.

菅原純 『現代ウイグル語小辞典』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(2009), 742p.